



碧南の図書館友の会編集
碧南市鶴見町1-70-1
電話 0566(41)0894
No. 133 2020年8月
編集責任者 杉浦卓郎

インド仏教遺跡の探訪

副会長
小島 逸男

1999年から6年間、自動車部品メーカーの従業員として、インドに駐在しました。インド人の経営者や従業員との意思疎通のためには、お互いの文化を理解することが重要です。インド人の考え方を理解するためにも、現地の寺院や遺跡を積極的に訪問して、インド文化を尊重し受け入れている姿をPRすることが重要です。

駐在したプネ市の周りには、遺跡や寺院も多く、各地に人々がお参りする寺院やお堂があり、日本の田舎の雰囲気がありました。同じ文化圏であることを、実感できました。釈迦が活躍したのは、インドの北部です。かなり距離が遠い地域でしたが、日本からの旅行と比較すると簡単に行けるので、現地にいる間は何回も旅行を企画して出かけました。長期休暇の時には、車をチャーターし、祇園精舎、釈迦生誕地、釈迦寂滅地などを回りました。途中の道路は、携帯電話の電波も届かず、電気も来ていない地域がほとんどで、2500年前の釈迦の時代と変わらない状態でした。当時は仏教遺跡の調査も「地球の歩き方インド」などや、一般的な旅行ガイドしかなく、主な観光地を回ることにしかできませんでした。本物の仏教遺跡だと思われたのは、祇園精舎、ルンビニ(釈迦生誕地)だけで、胡散臭い場所がかなりありました。特に、釈迦寂滅地(クシナガール)は、辻褄の合わないことが数多くある場所でした。

インド北西部 ジャaisalmer 街道沿いのお堂



手相(PALM)を見られる(READ)
街道沿いなのか、馬を祭っている (馬頭観音 ????)



推定クシナガールの場所 ランプルーバー石柱発掘地

奥には、約15Km先のVALMAKI山塊



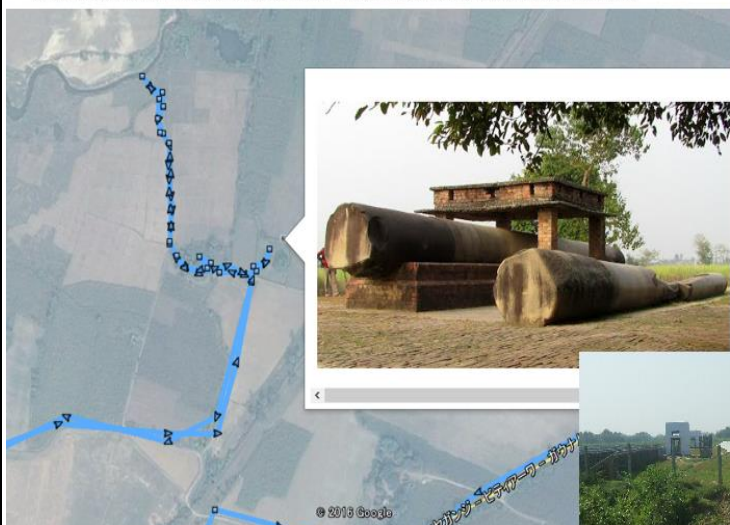
現地では日本では紹介されていない大型遺跡の案内地図もあり、日本の旅行ガイド本とは違う情報に接する事が多くありました。

日本に帰ってから、インド仏教遺跡探訪の「椎野能敬遺稿集」やインドのナーランダ大学の Web サイトや、GoogleMap、Wikimapia などの Web 情報や、4、5世紀のインドを訪問した、中国僧「法顕」「玄奘」が書いた旅行記「法顕伝」「大唐西域記」などを調べました。現在の場所は、仏教への関心が少ない大英帝国考古局が200年前に決めたもので、かなり信頼度が低いものだとということがわかりました。



ランプルーバー石柱訪問

直前の橋が、洪水で破壊され、通れない。(迂回)
遺跡の隣まで、太陽光発電所になっていた。(付近では、携帯電話もOK)



駐在から10年以上たって、会社を完全に退職したあとに、8日間のインド調査旅行に出かけました。個人で企画してインド専門の旅行社に依頼して、車とガイドを雇いガンダキ側東岸をネパール国境まで探索する旅行です。現地の仏教遺跡のガイドも経験したことが無く、更に現地ガイドを雇い奥地へ出かけました。この道は、古代の通商路で、アショカ王石柱が5本、大型遺跡が3ヶ所もあるのですが、日本ではほとんど紹介されず、日本人では私が最初では無いかと思いました。GPS ロガーも使い、事前に調べた場所へ進む方法も採りました。

釈尊寂滅地は現在ランプルーバーと呼ばれる場所で、法顕伝や大唐西域記に書かれる通り、アショカ王石柱が2本残っています。平野からヒマラヤ山地への入り口は、Bhikhna thori(ビクナトリー) 比丘の通り道と現地ガイドが説明してくれた、古代の修験者の通り道が日本語でも通じる地名になっていることに感銘しました。

釈迦の出家地(チャンダカが、馬を返した場所)は、全く不明です。ガンダキ川の氾濫に流されたとの伝承もありますが、どの付近にあったのかは判りません。この謎を追求するのが次の目標です。コロナ騒動が終息し、海外旅行が出来るようになれば、もう一度調査旅行に出かけたいと思っています。

読書グループ「碧南郷土史を学ぶ会」紹介

身近な郷土の歴史を話し合い、学ぶ会です。

1 例会

日時 …… 毎月第2日曜日
午後1時30分から3時30分

場所 …… 図書館本館

但し現在はコロナ感染症対策のため中部公民館

会費 …… 年間 2,000 円(主に資料印刷代)

進め方 …… 特定の講師が発表するのでは

なく、会員の中で発表できる人がテーマを決め

発表する。説明の後、出席者で質問や補足意見、感想等を出し合い内容を深める。

発表は出来ないけれど聴講だけという人も歓迎。

2 市内史跡めぐり

1年に1回、市内の地区を決め、身近な史跡めぐりを実施しています。

3 連絡先

図書館又は、事務局の磯貝国雄(電話 42-9145)



令和元年4月 神有地区 天満社

こんにちは「碧南市民図書館南部分館」です。

碧南市民図書館南部分館は塩浜町にあります南部市民プラザの中にある図書館です。

開館は平成3年7月。蔵書冊数は約5万冊、年間で延べ約1万5千人のかたの利用があります。(令和元年末現在)

2階に卓球やバドミントンが楽しめるアリーナがあり、本を読んでからスポーツを行うかたもみえます。今年度は残念ながらコロナ対策で中止となりましたが、年に数回アリーナを利用したおはなし会等の行事を行っています。

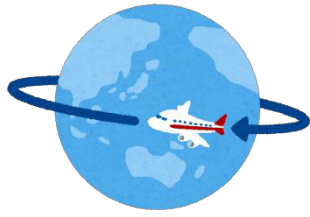


一般書は小説や料理、手芸等の実用書、健康に関する資料などを中心に所蔵していますが、資料の中には南部分館でしか所蔵していないものがありますので、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

また、こちらもコロナ対策のため当面は利用できませんが、子どもを対象した「へきにゃごトンネル」「ガチャガチャ」など、ダンボールを再利用した工作でお子さん、お孫さんとも楽しむこともできます。

職員一同、皆さまのご来館をお待ちしています。よろしくお願いたします。

夫婦で世界一周の旅をしました（2）



(1)は2018年12月126号

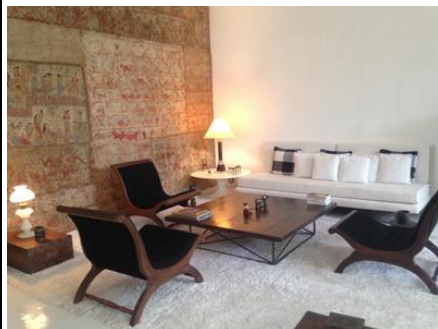
2020年新型コロナの影響で、計画した旅行がキャンセルとなり残念な気持ちでお過ごしの旅好きな友の会会員もいらっしゃるのではと思います。

私たち夫婦は、個人手配旅行で行った2018年秋の世界一周旅行に味を占め、今年2周目を計画していましたが、ご存じのように新型コロナですべてキャンセル。旅の写真を見返しては楽しかった日々をなつかしんでおります。



2018世界一周の思い出は、フィレンツェの美術館ボッティチェッリの作品。いつまでも見ていたいと思いましたが、英語のセリフが理解できなくて、回りの客がなぜ笑っているのかわからない体験をしました。カタールのドー

ハでは砂漠キャンプ。日本では体験できないツアーでしたが猛暑の9月にはお勧めできません。熱中症になりそうでした。



スリランカのコロomboでは有名な建築家ジェフリーバワの事務所兼自宅のゲストルームに宿泊しました。

コロナ自粛期間の今はテレビの旅番組を見ては、コロナ終息はいつだろうと待ち遠しく、2周目のリベンジはあるかな？次回は

どこに行こうかな？まずは国内旅行かな？と計画ばかり立てている日々です。



書記 杉浦真砂子

会員の皆様の旅行記・体験記等投稿お待ちしております。

視察見学会・音楽と朗読の夕べは
新型コロナウイルス感染拡大防止のため
今年度は中止といたします。